

新理事会が発足

理事長(理事) 上原 洋允
理事・相談役 上原 博一
専務理事 池内 啓三
常務理事 小西 靖洋
同 増地 英一
同 大馬 征次
同 芝井 敬司

理事 安部 誠治
同 荒木 孝治
同 石川 昌司
同 一軸 浩幸
同 今西 康光
同 越智 久江
同 山田 恵昭
同 河田 伸治
同 北谷 晋市
同 木村 晴三
同 楠見 勝次
同 藤 和夫
同 高瀬 武典
同 竹下 公視
同 寺内 俊太郎
同 東郷 洋
同 豊島 光男
同 南部 靖之
同 西岡 雅史
同 野村 明雄
同 萩尾 千里
同 前道 裕
同 山縣 博
同 山本 平蔵
同 吉田 幾生
同 石井 國男
同 小坂 裕次郎
同 小寺 一矢
同 竹内 正明

「優れた伝統を承継しつつ、たゆまぬ改革に取り組み」
十月二日開催の臨時理事会において任期満了に伴う役員の変更が行われ、理事長に上原洋允氏、専務理事に池内啓三氏、常務理事に小西靖洋氏と増地英一氏がそれぞれ選任された。また、新設の常任理事には、大馬征次氏と芝井敬司氏が選任された。任期は平成二十年十月一日から四年間。



理事長 上原洋允氏

プロフィール
一九三三(昭和八年)二月香川県生まれ。五十七年関西大学に入学、五十七年法学部卒業後、大阪七学院大学法学部研究科に在籍し、大阪大学大学院法学研究科に入学。六十二年から六十六年まで、大阪大学法学部助教授、六十七年から六十九年まで、大阪大学法学部教授、七十年から七十二年まで、大阪大学法学部教授、七十二年から七十四年まで、大阪大学法学部教授、七十四年から七十六年まで、大阪大学法学部教授、七十六年から七十八年まで、大阪大学法学部教授、七十八年から八十年まで、大阪大学法学部教授、八十年から八十二年まで、大阪大学法学部教授、八十二年から八十四年まで、大阪大学法学部教授、八十四年から八十六年まで、大阪大学法学部教授、八十六年から八十八年まで、大阪大学法学部教授、八十八年から九十年まで、大阪大学法学部教授、九十年から九十二年まで、大阪大学法学部教授、九十二年から九十四年まで、大阪大学法学部教授、九十四年から九十六年まで、大阪大学法学部教授、九十六年から九十八年まで、大阪大学法学部教授、九十八年から二十年十月一日まで、大阪大学法学部教授。

「優れた伝統を承継しつつ、たゆまぬ改革に取り組み」
十月二日開催の臨時理事会において任期満了に伴う役員の変更が行われ、理事長に上原洋允氏、専務理事に池内啓三氏、常務理事に小西靖洋氏と増地英一氏がそれぞれ選任された。また、新設の常任理事には、大馬征次氏と芝井敬司氏が選任された。任期は平成二十年十月一日から四年間。

新理事長に上原洋允氏

学院では、二〇〇六年三月まで特別顧問教授を務め、溢れんばかりの情熱で、法曹を志す後進の育成に携わった。
校友会では、代議員会議長、副会長を歴任し、二〇〇三年から二〇〇六年までの三任間会長を務めた。
二〇〇四年末には、関西大学改革推進協議会を設立し、入試試験制度、教学制度や広報戦略等、関西大学の更なる飛躍を図るための具体的な行動計画を策定し、目標達成に向けて、法人経営の舵取りを担う。
百二十年を越える本学の伝統を承継しつつ、変化の激しい不透明な時代に即応すべく、たゆまぬ改革に努力し、社会に貢献する優れた人材を輩出する。
今後、理事長として、前期理事会の成果として作成された中長期のビジョンに基づき、具体的な行動計画を策定し、目標達成に向けて、法人経営の舵取りを担う。

HEADLINE

2面 外国語学部を設置
平成二十一年四月「外国語のフロンティア」の育成をめざし、本学十一番目の学部として「外国語学部」を千里山キャンパスに開設する。

4・5面 この作品を見逃すな!!
芸術の秋に、オスズの書籍、テレビ番組、映画、CDを教員と学生からそれぞれ紹介する。秋の夜長、機会があればぜひ手にとりて鑑賞してほしい。
特集

8面 集合世界レベルの関大アスリート
「関西大学から世界へ」。国内にとどまらず、世界の大会で活躍する関大アスリートを紹介します。
特集

3面 新役職者紹介
6面 GPA制度を導入
7面 「関大LOVES」をテーマに学園祭を開催
8面 学生広報スタッフが活動開始

- 入試センター
環境都市工学部教授 秀樹
法学研究所
法学部教授 佐藤やよひ
法学部
吉田 栄司
文学部
山本 幾生
経済学部
竹下 公視
商学部
荒木 孝治

- 環境都市工学部
学部長 長瀬 重光
化学生命工学部
学部長 長瀬 重光
外国語教育研究機構
機構長 長瀬 重光
大学院
法学研究科 長瀬 重光
経済学研究科 長瀬 重光
商学研究科 長瀬 重光
社会学研究科 長瀬 重光
総合情報学部
学部長 長瀬 重光
システム理工学部
学部長 長瀬 重光

- 環境都市工学部
学部長 長瀬 重光
化学生命工学部
学部長 長瀬 重光
外国語教育研究機構
機構長 長瀬 重光
大学院
法学研究科 長瀬 重光
経済学研究科 長瀬 重光
商学研究科 長瀬 重光
社会学研究科 長瀬 重光
総合情報学部
学部長 長瀬 重光
システム理工学部
学部長 長瀬 重光



中国で開催された四年一度のスポーツの祭典「オリンピック」も種々の問題が起ころうながらも終了した。種々の問題は別として、競技に出場した選手たちは、これまでの努力と苦労を重ねてきた成果を発揮する大舞台であったに違いない。▼▼中では、金銀銅のメダルの数に国民が注目し、選手たちは、かなりのプレッシャーを感じながら競技に臨んでいたことであろうと思ふ。また、宿敵を制する試合ではメダルの取得の思いを超えた純粋に勝負者としての勝つ思いがあったことであろうと思ふ。決して全てが明らかされるわけではないが、この様な秘められた思いの中に、選手たちに通じる精神が見えてくる。▼▼マラソンで、辛くとも走りぬぐとした選手、シクロクロスで、かつての日本代表の指導者が宿敵の指導者となり、不利な状況下でも勝利した選手、体操で、不得手な種目で失敗しながらもメダルを獲得した選手、僅かの例ではあるが、それら選手たちには、たまたま「気力」が感じられた▼▼これを学問に結ぶればどうだろうか。結果はどうであれ、過去・現在・未来の自分を離れなく思えるようになる方法がそこに垣間見えないだろうか。(下家 浩二)



# 新 役 職 者 紹 介



## 果敢な実行力で 改革の理念を具体化

吉田 栄司 法学部長

これまで部長代理および法学研究科長代理として、学部と研究科の大きなカリキュラム改革を実現してきた。また、直近まで開設20周年を迎えた法学研究所長を務めた。憲法学者である教授の研究テーマは、「統治担当者に対する責任追及のメカニズム」を定めたものとして日本国憲法を読み直すことである。教育熱心な人である。というより、関大生が心底好きな結果として教育が好き、というのがより正確かもしれない。法学部は、本年度から従来の2学科制を改め、「法学政治学科」として新たにスタートすることに伴い、大きなカリキュラム改革を行った。「法治社会を生きたる力」の習得という、改革の理念を具体化する大仕事は、京大アメフト部で鍛えた教授の双肩にかかる。



## 緻密な論理と 現実的柔軟さ

山本 幾生 文学部長

カメラを片手に飄々と野山を歩く。自然を愛す新部長は、一方で緻密な論理を展開する理知の人である。理のある思考を煮詰めて、いささかも感情論に陥らない氏の姿勢は、大改革を進める文学部内でも圧倒的な信頼を得ている。  
しかも、公平で明快な議論を尽くした後に、相手の気持ちを思い遣る現実対応の柔軟さには、教授の穏やかで人情あふれる人柄がにじみ出ており、そのバランスのとれた会議運営は、全学機構教育教育部門委員長の大要職を見事にこなしたことで知られる。  
専門はハイデガーを中心にしたショーペンハウアー、ディルタイなどのドイツ哲学者で、単著『実在と現実』（関西大学出版部）は各学会等で高く評価された。「論理を貫く人情の人」がいよいよ登場する。



## 専修制 軌道に乗せ 学部を方向づける

竹下 公視 経済学部長

鹿児島県出身。昭和53年高崎経済大学を卒業、60年神戸商科大学大学院を修了後、61年に本学に着任。役職は、学生主任、学生相談主事、部長代理などを歴任し、今年4月からの半年間の全学自己点検評価委員会委員長を経て、10月から学部長・研究科長に就任。  
専門の「社会経済学」は、分かりやすく表現すれば、枝葉末節にこだわらず社会経済システム全体の姿と動きを「存在の根底」からトータルに捉える学問。学部長としての仕事は、昨年度導入された専修制を形作るものにするということ、10~20年の学部と経済学のあり方を睨んで間違いない方向性を定めることの二つである。愛読書は坂村真民氏の詩集、思考の原点は道元禅師の『正法眼蔵』である。



## イノベティブで 品格ある学風を継承

荒木 孝治 商学部長

神戸商科大学商経学部管理科学科卒業。大阪大学大学院基礎工学研究科数理系専攻を経て、昭和63年に本学に着任。  
専門は、数理統計学・データ分析論。この関連で、大学院在学中から、財団法人日本科学技術連盟等で社会人を対象とする品質管理教育を行ってきた。また、デミング賞委員会委員、QCサークル近畿支部世話人等の品質管理関係の社会的活動を行っている。最近では、Rというオープンソースのフリーなデータ解析環境の利用普及活動に力を入れている。  
何ごとも金で評価する風潮や、閉塞感の強い状況の中、「三方よし」の精神に基づき、商学部のイノベティブで品格のある学風を一層押し進めていくことが期待されている。



## 篤実で信頼厚く 更なる発展に導く

高瀬 武典 社会学部長

リーダーに欠かせぬ資質の一つに、「この人のためなら頑張りたい」とメンバーに思わせる力があげられるが、高瀬教授はそうした資質を持つ人物の一人である。学部長の役割が従前とは大きく変わるこの時に、学部を束ね、学部の新なる発展を導く力を持つことは間違いない。  
温厚、篤実でありながら、言うべき所では的を射た厳しい発言もする力強さと、研究、教育、学内業務、何事にも謙遜し、真摯に取り組む姿勢は、教授に対する信頼の源である。  
学部での学生主任、部長代理、教学主任、さらには全学共通教育推進機構長など、役職経験は豊富である。その経験を活かし、学部長としてどんな指揮を執るか、大いに期待されている。



## 卓越した実行力 信条は Peace & Justice

奥 和義 政策創造学部長

政策創造学部は、昨年4月に新しく創設された。その2代目の学部長として圧倒的な支持を得て就任したのが、奥教授である。  
教授は、昭和34年大阪市に生まれ、平成10年に本学に着任した。教授の専門は、日本の経済発展と国際貿易・国際通貨制度である。  
本学に着任後、学生センター所長、保健体育委員会委員長など大学の要職を務めた後、本年4月から政策創造学部の副学部長として学部運営の中心を担ってきた。それぞれの職において、教授の卓越した調整力と実行力が、遺憾なく発揮されてきた。温厚篤実な人柄であり、名前のとおり、Peace（世界平和）& Justice（正義の実現）が信条の一つでもある。



## 多様な行政に精通 内外から厚い信望

木谷 晋市 総合情報学部長

歴代の学部長と同様に再任されたが、得票数が増加しての再選は珍しい。専門は行政学であり、地方自治体の行政システムに関する多数の論文や著書がある。多様な行政に精通し、内外の信望は極めて厚い。総合情報学部のスタジオ設備更新に始まり学部や大学院のカリキュラム再編など、懸案事業を実現し、学部運営を円滑化させたことには、その専門性が応用されているとの風評である。もともと、教授自身は「高槻総情村の村長」であり、「中央へ陳情したり、地元との調整に奔走した」だけ、と自嘲的である。学問的理想からは遠いかもしれないが、「総情村」が更に活気ある「村」になるために、さらなる取り組みと、その温厚で誠実なリーダーシップに期待が寄せられている。



## 国際舞台でも高評価 改革理念の完成へ

前田 裕 システム理工学部長

システム理工学部が誕生して2年。完成年度をめぐすにあたり、圧倒的な支持を得て選任された。前田教授は若くして学部執行部の一員となり、3年半前には土工学部長兼学部長代理として支え、多くの困難を乗り越え改組を実現した。そこで示された卓越した構想力、調整力、そして情熱は、構成員の結束をより強固なものとし、悲願の改革がなった。その改革の理念を完成すべく、静かな闘志を持つての登場である。  
専門は電子制御工学で、ニューラルネットワークや遺伝的アルゴリズムの研究成果は国際会議で絶大な評価を得ている。学生の相談にも親身に応え、その温厚で誠実な人柄に信頼も厚い。この多難な時代を乗り越えていく学部長として期待される。



## 抜群の施策実行力 学会活動でも活躍

楠見 晴重 環境都市工学部長

環境都市工学部の初代学部長として尽力した楠見教授は今回の選挙でも圧倒的な支持を得て、再びその重責を担うことになった。また、工学研究科長（平成21年度から理工学研究科に再編）も兼任する。  
教授の研究領域は半導体工学、地盤工学、地下水工学などであり、日本を代表する研究者の一人である。NHKとの共同研究の成果が特別番組として放映されるなど、その研究活動は多くマスコミでも取り上げられ、学会活動においても中心的な役割を果たしている。  
気さくな人柄ではあるが、理工系学部発展のための施策を実行に移される手腕については万人が認めるところである。



## バイタリティー あふれる逸材

田村 裕 化学生命工学部長

昨年4月に誕生した化学生命工学部の第2代学部長。工学部学生主任、化学生命工学部副学部長を歴任。また、新学部開設以来、化学・物質工学科教育主任を兼任し、旧3学科・教室の構成員からなる新学部の船出にも手腕を発揮。  
多糖類や天然高分子を利用した医用材料をはじめとする用途開発が専門。  
企業との共同研究を積極的に推進し、「学の実化賞」を受賞（平成16年）するとともに、本学工学研究科とASEAN諸国の2件の合同国際シンポジウム（昨年本学、本年タイ・チュラロンコン大学にて開催）において実行委員長を務めるなど、本学理工系3学部の国際的な研究活動を牽引。バイタリティーのある逸材である。



## 新設の外国語学部 熱い想いで牽引する

宇佐見 太市 外国語教育研究機構長

このたびの学部長選挙において、これまでの2期4年間の機構長としての仕事ぶりが高く評価され、圧倒的多数の支持を得て機構長に3選された。  
近畿大学に専任教員として12年間勤務した後、平成3年本学工学部助教となり、翌年教授に昇任。その後、平成6年の総合情報学部創設に尽力し4年間高槻キャンパスで教鞭を執る。平成10年に工学部に戻り、平成12年創設の外国語教育研究機構へ移籍。30代は文芸雑誌の編集に携わり、文学三昧の毎日を送った。今も永遠の文学青年の風情が漂う。  
3期目を迎えた今、全学の外国語教育、大学院の教育、そして外国語学部への熱い想いは、ますます募っているようである。



## パワフルで社交的 抜群のバランス感覚

柴 健次 大学院会計研究科長

柴教授は、商学部在籍時には会計研究科設立に、会計研究科に移籍してからは研究科長として尽力した。最も信頼して科長を任せられる人であり、研究科の次なるステップへと、慎重さと大胆さが要求される難しい舵取りを託す人物として、圧倒的な支持のもとでの再選である。  
教授は、内面において繊細さを持ちつつも、すべてにおいてパワフルかつ社交的であり、バランス感覚に優れた人物である。また、研究面・教育面でも精力的であり、本研究科においては、スタッフをまとめあげ、『会計研究方法論』『会計専門職のための基礎講座』などの編者を出している。博士（商学）。ディスクロージャー学会会長等多数就任。



## 適材適所の人材 満を持して登場

山本 秀樹 入試センター所長

競争が熾烈化する大学入試の中で、山本秀樹環境都市工学部教授が副所長から満を持して入試センター所長に着任することは、舵取りの難しい時に正に適所に適材をえたとはいえる。本学工学部出身。専門は環境再生工学。山積する入試の課題に柔軟な発想で取り組み、行動力抜群である。教授の説明を聞いた高校の先生や受験生の絶大なファンも多い。行動力溢れ、情熱を持った教授がこれまでの経験を活かして所長に就任することで、厳しい入試情勢に対する果敢な戦略の策定が期待される。  
2007年度入試で「強い関西大学」を実現するために奔走し、志願者10万人越えを達成したのも教授の功績が大きい。教授は多くの人びとの期待に必ず応えてくれるであろう。



## 国際法学会で活躍 学生の指導にも定評

佐藤やよひ 法学研究所長

法学研究所長に就任した佐藤法学部教授は、東京大学大学院法学政治学研究科修士課程、博士課程を修了後、甲南大学を経て、平成14年本学に着任した。  
ヴェングラーの特別連理論に関する研究で知られるが、「代理母」出生子をめぐり問題など、親族法関係の渉外問題に関する論稿も多い。国際私法学会・国際法学会理事。国際法学会では、国際私法分野を代表して編集委員を何期も務めるなど、学会を担う研究者としての評価はもはや揺るぎない。  
本学では教学主任などを務める一方で、学生に対する厳しくも温かい指導には定評がある。昨年、開設20周年を迎えた法学研究所の舵取り役として、まさに適任であり、その手腕に大いに期待したい。



## めざすは世界的水準 傑出した向上心

鶴飼 康東 ソシオネットワーク戦略研究機構長

鶴飼総合情報学部教授の名は情報通信資本の実証研究の開拓者として定着している。平成14年以後、教授は、私立大学学術研究高度化推進事業の採択を受けて、多数のプロジェクトを包括する社会科学実験「ソシオネットワーク戦略」に従事して来た。ふつうの研究者であればこれだけの大きなプロジェクトが認められれば適当なところで満足して守りに入り込むところであるが、教授の傑出したところは、つねに厳しく成果を追求し、世界的水準に向けた努力を止めぬ点にある。そのゆえをもってこの度、共同利用・共同研究拠点のリーダーとして、日本の社会科学の発展の牽引役を担うこととなった。  
関西大学として日本の鶴飼にとどまらず、世界のUKAIとしての飛躍が期待される。

# CD



2005年 Solaris Records

## Echo Park advantage Lucy

**90's世代が「共振」**  
 「一番好きな作家は？」と聞かれてもそのときの気分では答えは変わってしまう。だが「一番好きなバンドは？」と聞かれれば、いついかなるときでも瞬時に同じ答えを返すことができる。advantage Lucy は90年代中頃結成された日本のバンド(現在ではメンバーは2人になってしまったが)。イギリス90年代のネオアコ/ギターポップを通過した人間にとっては、まさにすべてのツボを突かれる思いがする。高校時代ザ・スミスと一緒に聴いていた友人と十数年ぶりに再会したとき(しかも、このときはフジロックにニュー・オーダーを見に行った)、示し合わせたわけでもないのにカーステレオでadvantage Lucyを流していた。また最近では歌詞も凄く、まったくの主観で言えば、大島弓子の世界に近づいている感がある。入手の容易さでここでは最新アルバムを挙げたが、2000年までのベスト盤「Have a Good Journey The best of advantage Lucy 1996-2000」や9月17日発売のニューミニアルバム「飛び立った7頭の蝶たち」も大推薦である。  
 清水 崇 (経済学部准教授)

## ウクレレ栗コーダー リコーダーカルテット



2006年 ジェネオン エンタテインメント

**思わず吹きかくなる名曲集**  
 リコーダー合奏による「ウクレレセブンの歌」に「ボヘミアン・ラブソニー」。その脱力感に思わず笑ってしまう。  
 リコーダー以外の楽器を専門とする4人のミュージシャンがリコーダーで合奏する。本来得意な楽器であるウクレレ、ギター、チューバ、パーカッションなども加わる。  
 このアルバムには、モーツァルトからビートルズ、ティン・パパー、トノリのトコロまでのカバー曲が収録されている。「ピタゴラスイッチ」のオープニングテーマなどオリジナル曲中心のベスト盤「アンソロジー」も入門編としてお勧めである。  
 楽譜も発売されている。栗コーダーカルテットが使っている、鍵盤でリコーダーの音を奏でることができる楽器が製造中止になっていたにもかかわらず、演奏してみたいという人が多くて復活したというエピソードもある。彼らの演奏は、音楽の楽しさは数人でのセッションにあり、ということを教えてくれる。聴くもよし演奏するもよしである。  
 小川 博司 (社会学部教授)

## アフター・ザ・ゴールド・ラッシュ ニール・ヤング



ワーナーミュージック・ジャパン

**思慮深く、安らかな秋に**  
 秋には美しいメロディーの心地よい音楽を聴きたくするものである。そこで私はこのCDをお勧めしたい。この作品はニール・ヤングの中でも特に人気の高いアルバムである。1970年に発表されたものだが、現代でも生きている名盤だ。全体的にアコースティックでカントリーな曲調で統一されていて、秋の物憂い気分を少し楽にしてくれると思う。また、ニール・ヤングは歌詞も魅力のひとつである。この作品の中でも黒人差別を糾弾する詞や、聴いていて励まされる詞が散見されている。  
 私はこのCDを先輩に借りたことで知った。自分の知らない音楽は数々の数ほどあり、その中で一曲でも多く好きな音楽に出会うためには、自分からCDやレコードを探っていくべきなのだと思っている。そしてその過程が深まることは、その音楽の時代背景やアーティストの思想を知ることにつながる。それは、一種の哲学と言えるのではないだろうか。この秋は音楽で思索を深めることもお勧めである。  
 久保田ちひろ (政策2)

## ボサノヴァの歴史外伝 パジャマを着た神様



国産 真奈訳 音楽之友社 2003年

ルイ・カストロ / 著

**つながり、広がる律動**  
 2008年はボサノヴァ生誕50周年(および日伯交流100周年)ということもあり、ボサノヴァやブラジル関連のイベントが各地で行われ熱い盛り上がりを見せている。  
 ボサノヴァの誕生は一般にジョアン・ジルベルトが「悪いあふれて」をレコーディングした時とされているが、もうそれから50年がたったということに感慨にふけっている人も多いであろう。あるいはボサノヴァには特に愛着はなかったがこれを記念にボサノヴァやブラジルについて深く知りたくなったという方もおられるであろう。その場合は本書がお勧めである。取り上げられている題材は多岐に及び飽きさせない、それでいてコンパクトにまとめられていて読みやすい。ガーシュインやプリジッド・バルドーなど、一見するとボサノヴァとは何の関係もないように思われる人物も多数取り上げられていて、それらがボサノヴァとどう繋がっていくのかということも見どころである。  
 高岸 敦夫 (文学研究科D3)

# BOOK

## 父の威厳 数学者の意地 [新潮文庫]



新潮社 1997年

藤原 正彦 / 著

**学者・作家が日常つづる**  
 著者は、お茶の水女子大の教授で数学を教えている学者である。数年前に出版された「国家の品格」がベストセーになり一躍有名になった作家でもある。  
 30年以上前になるが、偶然本屋で著者の「苦き数学者のアメリカ」というエッセイを見つけ、即刻購入し読んだことが思い出される。著者が、ポスドクとして米国ミシガン大学およびコロラド大学に滞在され、語学、文化の違いの中、日本人としての自尊心を持って孤軍奮闘された日々が生き活きと、流暢な文章でつづられた作品である。小生も当時、イリノイ大学にポスドクの職を得、見知らぬ地で研究する不安を抱いているときであり、大いに勇気付けられたことを覚えている。  
 筆者の最近の著書には「武士道」に基づく愛国精神が前面に出すぎる嫌がある。しかし、本書は著者のごく普通の日常についての随筆であり、著者自身の深い人間性、人生観が余すことなくユーモアあふれる文章でつづられており、人の生き方、人生を再考するきっかけを与える良書である。一読をお勧めする。  
 大西 正視 (システム理工学部教授)

## ゲド戦記 アーシュラ・K・ル・グウィン / 著



清水真砂子訳 岩波書店

**少年の影、自分探しの長編**  
 いつだったか、宮崎吾郎監督アニメ「ゲド戦記」を見た。素晴らしい作品だが、予備知識のなかった私の素直な感想は「……で、ゲドは誰?」。これでは消化不良と書店に走ったのが、ゲドに触れたきっかけである。  
 原作とアニメは完全にストーリーが違った。以来すっかりはまり込み、ゲド戦記全6巻、寝食忘れて(本場で)読みふけるはめになった。ゲド戦記は、魔法を学ぶ少年ゲドの驕る心が闇から呼び出した影、その影に向き直り、怯えながらも克服していく第1巻に始まる。闇に囚われた少女や死の淵へ旅立つ少年、半身を焼かれた少女、均衡が崩れた世界を修復しようともが人間たち。そして力を使い果たした、ただの人になってしまうゲド。単純な善悪と派手な魔法に彩られたロールプレイングゲーム的ファンタジーが好きならにはお勧めできない。が、「自分は何者か」「自分はどこへ向かっているのか」と少しでも考えたことのある人はぜひ、手に取ってみてほしい。  
 田村香月子 (商学部専任講師)

# この作品を見逃すな!!

### 秋の夜長を楽しめる! ひとつひとつおきアイテム紹介!

天高く馬肥ゆる秋、女心と秋の空など、「秋」をあらゆる慣用語は多数ある。また、過ごしやすいい気候から、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋など、多様な言葉に連想されることが多い「秋」。  
 今回の特集では、そんな「秋」にちなんだ言葉の中でも「芸術」に焦点をあて、教員と学生からおススメの書籍、映画、音楽、テレビ番組などを紹介。最新作品から過去の名作まで、お見逃さないように!!



©2007年「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」製作委員会

## 腑抜けども、悲しみの愛を見せろ

吉田 大八 / 監督

**何もできずに日々を過ごす人に勇気をくれる**  
 北陸のとある田舎町で暮らす和合家。父母の事故死という不幸が襲う。残されたのは、長男・宍道、その妻・待子、次女・清深、そして二人の死をきっかけに町に戻ってきた長女・澄加である。澄加は女優になるために上京していた。澄加に会えるのを楽しみにする待子をよそに、清美は姉が戻ってくることに、発作を起こすほどひどく怯える。その理由は、4年前のある事件によるものであった。  
 印象的なのは、ねっとりとした耳に残る音楽、そして和合一家の人物像である。澄加は、女優になるという割には演技が下手で努力もしない。その上自分には才能があると完全に思い込んでいるからどうしようもない。清深は、ホラー漫画を描くことに怖いほどの才能を持つ。宍道は家族のことで悩み、待子は極度のお人好しで奇妙な人形作りが趣味。これは、そんな人たちが巻き起こす、笑えないように笑える気持ち悪い空気が魅力的映画である。他人とは違う、そう思いたいけれど何もできずに日々を過ごす人に勇気をくれる気がした。  
 南 愛美 (情3)



©2008 Fortissimo Films/TOKYO SONATA 製作委員会

## トウキョウソナタ

黒沢 清 / 監督

**シヨットがすべてを語る**  
 黒沢清の類まれなる演出力を堪能できる傑作である。失業を家族に隠す権威主義的な父親(香川照之)、涙とした欲求不満を抱える母親(小泉今日子)、米軍に入隊する大学生の長男(小柳友)、親に隠れてピアノ教室に通う小学生の次男(井之脇海)——この4人が奏でる不協和音は、安易な物語に回収されることのない、きわめて具体的な、揺るぎないほどのシヨットの力によって、見る者を震撼させずにはいない。  
 たとえば、ハローワークの階段に列する失業者たちや、炊き出しの行われる公園の石柱にまばらに座るスーツ姿の男たちといった画面の喚起力。あるいは、夫婦の断絶が決定的になる瞬間のただならぬ切り返しシヨットや、父親に突き落とされて階段を滑り落ちる次男のシヨット。こうした映像には、どんな饒舌な台詞にも増して、状況を観客にただちに了解させる力が漲っている。そして、ラストの(月)の光の演奏。これほど充実した映画の瞬間はまたとない。  
 堀 潤之 (文学部准教授)



2007年 発売:角川書店 販売:角川エンタテインメント

## らき☆すた 美水かがみ / 原作

**あのキャラも出演!**  
 主人公の一人がオタクであるこの作品には、他のアニメ作品の話題やキャラクターが豊富に投入されており、他作品との連絡やその編集を特徴とするポストモダン的な特徴が顕著である。この特徴も、多くのMADムービーが投稿サイトに登場し続ける人気と無関係ではないだろう。しかし、本来の音声や画像を編集して制作される多様なMADムービーもまた二次的著作物に当たり、権利者の許諾がない場合には著作権法上の罰則に抵触することになる。  
 この1月25日、「らき☆すた」の権利を持つ角川グループホールディングスは「YouTube」と共同して違法動画を排除する技術開発に参加すると発表した。しかし投稿による宣伝効果もまた注目されることであり、角川GHDは、一方的な削除ではなく、権利に配慮しつつ次世代のクリエイターと連携したい旨を付け加えていた。後ろ暗いことなく「また別の「らき☆すた」が編集されていくかどうか、今後の展開に注目したい。  
 若林 雅哉 (文学部准教授)



毎月曜日 22時~22時54分放送

## カンブリア宮殿 [日経スペシャル] テレビ東京

**言葉一つに「人生」のストーリー**  
 私がこの番組をお勧めするのは、自分がこの番組によって感化され、もっともっと精進しようとする度々も思ったからである。さらに、多くの大企業を紹介しているので、就職活動の参考にもなる。  
 番組の醍醐味は、大企業の社長や重役の「人生」を学べることである。大変な下積み時代やどうしようもない挫折から、危機を越えて成功するまでの、その人にしかないストーリー。例えば、H・I・S会長の澤田秀雄氏の話である。  
 「一番大切なものは戦い抜く意志。本当に正しければいずれルールが変わる」「問題が起きると人間は暗くなりがちだが、そこで暗くなれば沈むだけ、もがけばもがくほど沈む。そういう時こそ、自分のやっていることは正しいのだと信じ、明るく挑戦し直せば、必ず日は差す」その言葉は、苦悩にめげず、意思を貫き通した澤田氏の姿を表している、勇気がでた。活字ではなく、表情や立ち振る舞いなどすべてを含めて、豊富な経験や能力、自信をうかがわせる。それは、ただの物語を見るのではなく、ひとりの人間の「人生」を垣間見るようである。  
 吉田 裕哉 (情3)

# MOVIE

## 評決

シドニー・ルメット / 監督



1982年 アメリカ 2008年11月26日発売 ¥2,848(税込 ¥2,990) 20世紀フォックス ホームエンターテイメント

**裁判員、来年は自分かも…**  
 ボストンに1人の落ちぶれた中老の弁護士がいた。新聞の死亡欄を見て係争問題に発展しそうなものを探しては、葬儀場で遺族に名刺を渡すことを繰り返して何か食いつなく日々。そんな彼ののもとに持ち込まれた仕事の依頼人は、出産時の麻酔投与ミスで植物人間となった女性の姉夫婦。病室で彼が見たものは、機械につながれて命を永らえるだけの女性の姿。その姿を証拠に撮影するうちに心の中に熱い思いが込み上げてきた彼は、病院側から提示された21万ドルもの示談金を迷いつつ拒否し、法廷闘争を決意する。最終的に、医療記録を改竄する際に看護士が取っていたコピーが判決に影響しないこととされ、勝訴につながる証言、証拠を全く失った彼が得た結果は……。視聴者には、単なる法廷ドラマスベンス映画としてではなく、ぜひともこれからわが国で始まる裁判員制度、そして何より誰もが人を裁くということ、そこに感情が入り込むことの現実の怖さを感じ取ってもらいたい。  
 笹本 幸祐 (法学部教授)

# TV

## VOICE「憤懣本舗」 毎日放送



VOICEは、毎週月曜日~金曜日18:16~18:55放送

「憤懣本舗」は、毎週月曜日の名物コーナー

**闇社会を追う硬派報道**  
 「憤懣=発散できずに、心中にわだかまる怒り」(広辞苑第六版)。「頭に来ていることはありませんか? その怒りは社会問題とつながっているかもしれません」(同番組・ホームページ)。2002年1月7日に始まり、この10月6日で第340回と、報道番組中のシリーズとしては長寿のコーナーに属する。  
 公務員のカラ残業、勤務の中抜け、組合の専断など社会的に影響を与えた内容のほか、二セ街頭暴金、大学生の通学マナー、迷惑花火、水上バイク、河川敷不法占拠などのモラルを問うもので、放送により改善されたケースもある。関西制作の硬派番組としても数少ないものの一つで、キー局のTBSから全国に放送されることも。娯楽中心の軟らかい番組が幅を利かせている地上波テレビの中で、放送ジャーナリズムの健在を示す好番組。  
 佐野 匡男 (総合情報学部教授)



# 学園祭 10月23日から4日間

## テーマは「関祭LOVERS」

二〇〇八年度統一学園祭の日程が十月三十一日(金)～十一月三日(祝)に決定した。今年度のテーマは、「関祭LOVERS(カンサイラバーズ)」。

学園祭期間中の四日間、関西大学を愛する学生たちが一つになって、「愛」で溢れたキャンパス空間を創ろうという意図が込められている。

十一月二日には、ここ数年好評であるライブが中央体育館で行われ、4thオリジナルアルバム「mihimaris」がオリコン初登場一位を獲得する等、HIP HOPにますます磨きがかかるmihimaru G.Tが出演する予定である。

十一月三日の夕方には、学園祭最大のイベントである後夜祭が開催される。場所は昨年と同じ暖房館前の「悠久の庭」で、多数の観衆が見込まれている。

在学生はもちろん校友や地域住民のみならず、心から楽しんでもらえるよう、学園祭実行委員会を中心に日夜準備が進められている。



## 海外から講師招き 秋の人権啓発行事

本年度の秋の人権啓発行事は、次の二つのテーマで開催される。

秋の啓発行事は従来から、世界の人権を考えることに焦点をあてて実施してきたので、今回も海外から著名な講師を招き、「国際体制と人権」や「グローバル・シフトと言語権」をめぐり、グローバルに関する講演を予定している。

講演内容の詳細については、事前に配布されるパンフレット「人権を考える」に紹介している。多数の参加を期待している。

(副学長 芝井 敬司)

<p>11月13日(木)</p> <p>講演テーマ: 「グローバル化と人権」</p> <p>講師: フラビオ・キド</p> <p>時間: 13時00分</p> <p>場所: 千里山高文</p>	<p>11月17日(月)</p> <p>講演テーマ: 「冷戦後の国際関係」</p> <p>講師: ロナルド・キッド</p> <p>時間: 13時00分</p> <p>場所: 千里山高文</p>
--	--

## 平成21年度 交換派遣留学生の秋募集

本学生交換協定大学のうち十八大学に一年間留学する学生を左記のとおり募集している。募集は春と秋の二回実施しており、英語、スペイン語および中国語の大学については年二回応募することが可能である。

なお、この秋募集に関する「秋期 留学ガイダンス」(十月八日開催)の様子を近日中に動画配信する予定である。

詳細は、国際センターウェブサイト (<http://www.kansai-u.ac.jp/koexchange/>)、およびインフォメーションシステムに掲載されている問い合わせは、国際センター事務局(06-6368-1174)まで。

(国際センター事務局)

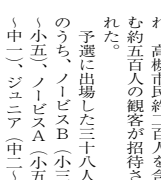
- 交換派遣留学生 募集要項**
- 出願締切 10月29日(水)
  - 選考方法 語学試験(筆記・聴解・口頭) 11月5日(水) ※英語は口頭のみ
  - 面接試験(日本語または受験語種) 11月19日(水)
  - 奨学金 関西大学国際交流助成基金第1種奨学金(平成20年度交換派遣留学生は30人に支給予定) 欧米、豪州、中南米、アフリカ アジア.....50万円 .....30万円

## 高槻の風

大学の使命である社会貢献活動の一環として、第一回関西大学氷上甲子園ジュニアアイススケート大会が、八月三十日と三十一日の両日、高槻アイスアリーナにて開催された。

初日は予選、二日目は決勝とトップスケーターによるエキシビションが行われ、高槻市約二百人を含む約五百人の観客が招待された。

予選に出場した三十八人のうち、ノービスB(小三・小五)、ノービスA(小五・中一)、ジュニア(中二・高二)の各クラス上位三人が決勝に進み、審査委員である本学アイススケート部OB佐藤信子氏、同OG佐藤久美子氏および女優で元宝塚歌劇団男役トップスターの湖月わたる氏の前で、熱く華麗に戦った。



「氷の甲子園」結果(敬称略)

知子(小五)、二位 木原万理子(小五)、三位 市橋翔一(小五)。

「ノービスB」優勝 宮原菜子(中二)、「ノービスA」優勝 村上葉太(中二)、「ジュニア」優勝 村元哉中(高二)、二位 細田采花(中三)、「ジュニア」優勝 田村裕斗(中三)。

「エキシビション」出場者(敬称略)

村元小月(カナディアンアカデミー)、宮崎勇人(文一)、瀬藤愛里(商二)、西上順三(経二)、北村明子(文二)、三木連(信三)、平井絵巳(経四)、湯澤綾人(中央大)、町田樹(文一)、金彩華(商二)、澤田亜紀(文二)、織田信成(文四)、高橋大輔(M)。

(高槻キャンパス事務局)

## 氷の甲子園

## 氷上の蝶 熱く華麗に戦う

「ジュニア」の表彰風景

二位 木原万理子(小五)、三位 市橋翔一(小五)。

「ノービスB」優勝 宮原菜子(中二)、「ノービスA」優勝 村上葉太(中二)、「ジュニア」優勝 村元哉中(高二)、二位 細田采花(中三)、「ジュニア」優勝 田村裕斗(中三)。

「エキシビション」出場者(敬称略)

村元小月(カナディアンアカデミー)、宮崎勇人(文一)、瀬藤愛里(商二)、西上順三(経二)、北村明子(文二)、三木連(信三)、平井絵巳(経四)、湯澤綾人(中央大)、町田樹(文一)、金彩華(商二)、澤田亜紀(文二)、織田信成(文四)、高橋大輔(M)。

(高槻キャンパス事務局)

タイ・日本国際シンポジウムを開催

工学部と振興会に記念の盾

タイ王国チュロンコン(本学実行委員長・田村裕斗)が工学部教授として、タイ・日本国際シンポジウムに、工学部と振興会に記念の盾を贈呈された。

タイ王国チュロンコン(本学実行委員長・田村裕斗)が工学部教授として、タイ・日本国際シンポジウムに、工学部と振興会に記念の盾を贈呈された。

タイ王国チュロンコン(本学実行委員長・田村裕斗)が工学部教授として、タイ・日本国際シンポジウムに、工学部と振興会に記念の盾を贈呈された。



春学期卒業式学位(修士・専門職・博士)記授与式・秋学期入学式を挙げる

九月十八日十時から百周年記念会館ホールで春学期卒業式・学位(修士・専門職・博士)記授与式を挙げる。

九月十八日十時から百周年記念会館ホールで春学期卒業式・学位(修士・専門職・博士)記授与式を挙げる。

樹脂製のアイビーを 車庫東壁面に設置

現在、関西大学会館南側に校友・父母会館を建設中であるが、平成二十一年三月竣工予定、一足先に会館関係車両の車庫が完成した。

委員である株式会社石本商會の豊田肇相談役と豊田淳子取締役後から、樹脂製アイビーおよび施工工事の高齢者あり、色鮮やかなカラーが、キャンパスの雰囲気に溶け込んでいる。

全国で地方教育懇談会を開催

関西大学と関西大学教育後援会では本年度も地方教育懇談会を開催し、盛會裡に終了した。開催地別の出席者数は次のとおり。

7月27日	金沢市.....156人
7月29日	別府市.....45人
7月29日	岐阜市.....72人
8月1日	宮崎市.....37人
8月1日	長崎市.....15人
8月3日	静岡市.....69人
8月3日	福岡市.....144人
8月22日	四日市市.....89人
8月24日	松江市.....41人
8月24日	広島市.....186人
8月26日	高松市.....150人
9月7日	高知市.....61人
9月7日	長野市.....39人
9月7日	仙台市.....33人

なお、10月12日(日)に京都市で教育懇談会を開催する。(教育後援会)

化学工学科創立50周年記念式典

11月22日に百周年記念会館で

化学工学科 環境都市工学部エネギー・環境工学部は、昭和三十三年四月に工学部が設立された際、機械、金属、電気工学科とともに発足した。このたび、平成二十年をもって創立五十周年を迎え、これを記念し、次の要領で記念式典を開催する。詳細は学科ウェブサイト (<http://www.cheng.kansai-u.ac.jp/public.html>)、[ml.contents/index.html](http://ml.contents/index.html)を参照。

日時: 十一月二十一日(土) 午後二時

場所: 千里山キャンパス百周年記念会館

時間: 十三時三十分~十七時

内容: 五十周年記念式典、記念講演会、化学工学科同窓会会費および記念祝賀会

参加費: 三千元

春学期卒業式学位(修士・専門職・博士)記授与式・秋学期入学式を挙げる

九月十八日十時から百周年記念会館ホールで春学期卒業式・学位(修士・専門職・博士)記授与式を挙げる。

九月十八日十時から百周年記念会館ホールで春学期卒業式・学位(修士・専門職・博士)記授与式を挙げる。

樹脂製のアイビーを 車庫東壁面に設置

現在、関西大学会館南側に校友・父母会館を建設中であるが、平成二十一年三月竣工予定、一足先に会館関係車両の車庫が完成した。

委員である株式会社石本商會の豊田肇相談役と豊田淳子取締役後から、樹脂製アイビーおよび施工工事の高齢者あり、色鮮やかなカラーが、キャンパスの雰囲気に溶け込んでいる。

JR吹田駅が運行 通学の便が改善

九月一日から、JR京都線東海道本線吹田駅と千里山キャンパス間のバスが、運行が阪急バスによって開始され、キャンパスのアクセスがより便利になった。この新路線は、第四学舎前に新設された、関西大学

関西大学ウェブサイトリニューアル

関西大学ウェブサイトを九月三十日にリニューアルした。

トップページのデザインを一新し、各組織のウェブサイトを移動する前に概要情報ページと関連リンクを設けるなど、初めての訪問者にも分かりやすいよう案内機能を充実させたことが主な変更点だ。

これは、昨年の十一月以降、在学生のみならず、教職員や関係者にも協力して実施したアンケート調査やユーザビリティテスト、アクセスログ解析の結果を踏まえて策定したガイドラインに沿ったものである。

在学生や教職員は、より多くの人に大いに活用してほしい。

JR吹田駅が運行 通学の便が改善

九月一日から、JR京都線東海道本線吹田駅と千里山キャンパス間のバスが、運行が阪急バスによって開始され、キャンパスのアクセスがより便利になった。この新路線は、第四学舎前に新設された、関西大学

JR吹田駅北口から発車

九月一日から、JR京都線東海道本線吹田駅と千里山キャンパス間のバスが、運行が阪急バスによって開始され、キャンパスのアクセスがより便利になった。この新路線は、第四学舎前に新設された、関西大学



関大通信 第356号

平成20年(2008年)10月10日  
大阪府吹田市山手町3-3-35  
http://www.kansai-u.ac.jp/  
次号は11月28日発行の予定です

飛躍スペシャル

写真提供：関大スポーツ編集部【一部除く】

# 集合 世界レベルの 関大アスリート

北京オリンピックでの日本人選手の活躍で、日本列島が感動の渦に巻き込まれたのは記憶に新しいところ。関西大学のアスリートたちも負けてはいない。ここでは、この夏、世界を舞台に活躍した選手を紹介しよう。

がんばれ、関大スポーツ！



陸上競技部  
松山 祥子さん(文1)

第13回アジアジュニア陸上選手権大会(6月・インドネシア)で女子5千メートルに出場した松山さん(写真右)は、気温30度、湿度80%という息苦しささえ感じる気候の中、見事3位に入賞し、表彰台に上った。厳しい練習、栄養バランスを保って増加を防ぐ体重管理、辛いことも多い普段の練習だが、走るのが好きという気持ちと、クラブの仲間・コーチ、両親、鍼灸の先生など周りの人の支えを受けて続けてこられた。今後は、1万メートルを中心に、日本代表(個人)、日本インカレ(団体)での活躍を誓う。



空手道部  
梶川 凜美さん(文1)

第6回世界学生選手権大会(7月・ポーランド)女子個人「形」の部で優勝。高校時代国体三冠を勝ち取り、

頂点に立った。その結果、逆に一時は目標を見失いかけたことも。でも、まだ世界がある、今は通過点と気持ちを切り替え、さらに練習を重ねた結果が今回の世界一につながった。

外国人選手のレベルが上がってきているのを感じた今大会、タイトル保持者といえども油断はできない。来年のユニバーシアードでも狙うのは、もちろん優勝だ。



ソフトボール部  
川口 拓馬さん(経1)

ソフトボールの魅力は、時速110キロの球が近距離で迫ってくるスピード感。川口さんは、カナダで開催された第8回世界男子ジュニア選手権大会にU-19日本代表として参戦した。川口さんは3番レフトとして活躍、体の大きな外国人選手にも足を使ったプレーで快勝し、チームは見事銅メダルを獲得した。

関連で前向き、笑顔のさわやかな川口さんの目標は、個人のスキルを磨くのはもちろん、関西大学ソフトボール部の「全国制覇」だ。



レスリング部  
梶本 千晶さん(文2)

今年7月の世界大学レスリング選手権大会では無念の1回戦敗退。「外国人選手との体格の差、力の差を痛感しました」。選手としては小柄な梶本さんは中学校時代、ソフトボール部の4番バッター。高校からはじめたレスリングで男子を相手に練習や試合をするうち、国内では常に上位に進出していた。そんな彼女にも世界の壁は厚かったようだ。

現在、週6日の練習に励み、試合前の減量に苦しむ彼女の目標は、小学校の先生になること。「スポーツを通じて学んだ多くのことを子どもたちに伝えたい」と本人は話している。



ヨット部  
後藤 沙季さん(文1)

小2の夏、父に連れて行かれた別府市のヨットハーバー。最初は練習が辛くて、泣いてばかり。小6で上級クラスに移ってからヨットが楽しくなってきた。「風をとらえて、早く走れるのがうれしくて」。その2年後には初の海外選手権。言葉はわからないけど、外国人選手との交流が新鮮だった。今年7月には大曲 昭子さん(商2)と組んで世界選手権へ。海外でも物怖じしない後藤さんの現在の目標は、強豪ぞろいの部内でレギュラーになることだ。



射撃部  
笠井 善仁さん(文4)

2008年世界大学射撃選手権大会(10月8日~11日・北京)に、射撃部の笠井善仁さん(文4)が、日本代表選手として出場。活躍が期待される。



## 学生広報 スタッフが 活動開始



本紙『関西大学通信』の編集に「学生広報スタッフ」が加わります。

### 『関大通信』をより身近に

本紙は教職員が委員を務める広報委員会により編集・発行されていますが、主な読者である学生の視点を取り入れ、より身近なものに感じてもらうことになりました。

募集告知を見て、全学部から集まってくれた26人(男子10人、女子16人)がこの秋学期から最終面の企画・編集を中心に活動を開始しました。いよいよ次号がデビュー作となります。今後の活躍にご期待ください。

平嶋 里穂

暑かった夏も終わり新学期になった。今秋は「体制の刷新」がキーワードになりそう。日本では新内閣が組閣され、アメリカでは十一月に大統領選が控えている。フランスでは教育制度の改革により、授業時間が短縮される。一方、習熟度の低い生徒に対する授業時間外補習が義務化された。刷新の風は本学にも吹いている。十月は新理事会が発足、各学部は新役職でのスタートとなる。「関大通信」の学生広報スタッフも始動する。健全な組織運営のためには組織の活性化が欠かせない。しかし重要なのは人が変わることで、自分自身は、新メンバーの加入で構成員のもの、考え方に変化が起ること、本紙の変化は人の内面的変化によって可能となる。



編集後記